

「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」
に基づく令和2年度取組状況報告書



札幌市子どもの権利総合推進本部

基本施策2 子どもの参加・意見表明の促進

(1) 市政やまちづくりへの子どもの参加の促進

① 子ども議会

未来を担う子どもたちに、札幌のまちづくりについて考え発表してもらうことで、市政に対する子どもたちの理解や関心を促進する取組。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じて実施。市政について、所管課の講義(DVD形式)や、市職員との質疑を経て、子ども議員が選んだテーマについて各々書面で意見を提出した。

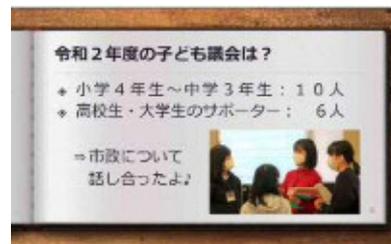
提出された意見は子ども未来局でまとめ、市)市民自治推進課の主催イベントである超まちフェスで職員が発表した。

【実績】

- 子ども議員：10名
高校生・大学生サポーター：6名
会議開催回数：1回（初回以降書面にて開催）
- 発表項目
 - ・ いじめ・学校教育について
 - ・ 人間と動物の関係や動物の保護活動について
 - ・ 食品ロスについて



▲話し合いの様子



▲発表の様子(超まちフェス)

② 市政に対する子どもからの提案・意見募集ハガキ

子どもが市政について、気軽に提案や意見を言うことができるよう、返信用ハガキを添付した資料を作成し、学校や公共施設に配布した。子どもから寄せられた提案・意見の概要やそれに対する札幌市の見解を、子どもの権利の広報紙に掲載している。



テーマ	主な意見	件数
①札幌市内の文化財の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財についてポスターなどにまとめる授業をすると良いと思う。 ・新聞に多くの方がわかりやすい文化財の歴史を書いたコーナーを掲載する。 ・札幌出身の有名人にPR動画を作ってもらい、人の多く集まる場所で流す。 	770件 (231通)
②文化財のイベントを企画しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財をまわるスタンプラリー ・文化財の〇×クイズ大会 ・文化財のフォト選手権 	

③ 4まち子ども交流事業（子どもの交流・参加の促進）

札幌市と同様に「子どもの権利条例」を制定している奈井江町・北広島市・長野県松本市と札幌市の子どもの交流事業「4まち子ども交流」を例年夏休みに実施している。

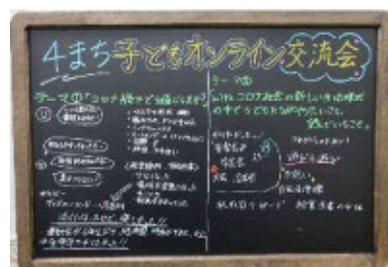
令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、夏休みの開催を見送り、冬休みにオンライン会議ツール Zoom を使用し、オンライン交流会を開催した。

各自治体から小学5・6年生9名が参加。札幌市からは小学5年生2名が自宅から参加したほか、ファシリテーターとして市内の高校生2名も参加した。

交流会では、高校生の司会進行の元、コロナ禍の過ごし方や子どもたちがこの先望んでいることなどについて、率直な意見を出し合い、交流を図った。

※ 奈井江町は、道内で最も早く平成14年に権利条例を制定しており、奈井江町子ども会議では、子どもがまちのイベントや地域の環境活動に関する取組を企画、実施している。

北広島市、長野県松本市は、平成24年に権利条例を制定。



④ 市政における子どもの意見表明の機会の促進

子どもを対象としたパブリックコメント（キッズコメント）やアンケート、ワークショップを実施するなど、市政に子どもの意見を反映する仕組みが拡大するよう、取組を推進した。

《主な取組》

項目	内容
子ども広報モニター	広報誌の誌面づくりなど本市の広報業務に子どもの意見を取り入れるため、小学生～高校生のモニターを対象に、2カ月に一度、誌面の内容・デザインなどについてアンケート調査を行っているほか、別途今後の誌面の内容や広報に係るアンケート調査を実施している。
「札幌市気候変動対策行動計画（案）」に対するキッズコメント	札幌市気候変動対策行動計画の策定にあたり、イラストを用い、表現を分かりやすいものにした小中学生向け資料を作成し、市立の小中学校、特別支援学校、中等教育学校及び児童会館に配布。寄せられた意見の概要とそれに対する札幌市の考え方をまとめた資料を作成し、学校等へ配布するとともにホームページで公表した。
環境教育・SDGs ワークショップ	これからの未来を担う子どもたちが、地球環境を意識して生活する心を育み、自発的な行動につなげるきっかけとなることを目指して小学生を対象としたオンラインによるワークショップを開催。地球の循環のしくみを学びながら、300年宇宙を飛び続けるロケットのために必要なことについてグループワークを行い、成果を発表した。

(2) 施設や地域における子どもの参加の促進

① 子ども運営委員会

児童会館やミニ児童会館全館において、子どもたちの自主性や積極性を育むために「子ども運営委員会」を設置し、施設運営のルール作りや様々な行事の企画・運営に子どもたちの意見を反映させた。

なお、例年であれば、地域住民を交えた世代間交流も積極的に行っているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、実施していない。

② 少年団体の支援

地域の子どもの活動等の中心としてふさわしい資質を持ったジュニアリーダーの育成をすることで、地域の活動の円滑化・活性化を図り、もって地域の子どもの健やかな成長を推進する「ジュニアリーダー養成研修」を実施しているほか、少年団体の育成、活動の推進、加入の促進等の支援を行っている。

③ 子どもの体験活動の場の支援

旧真駒内緑小学校跡施設「まこまる」において、プレーパークや昔遊びなど、多様な体験機会を子どもに提供する子どもの体験活動の場「C o ミドリ（こみどり）」の運営を支援している。

C o ミドリでは、開館日には、毎日プレーパークを実施するほか、子どもたちにとって魅力的な様々な体験プログラムを提供している。

【実績】

○ 子どもの体験活動事業（プレーパーク及び体験プログラム）

- ・ 実施日数 162日（プレーパーク118日、体験プログラム44日）※延べ
- ・ 利用人数 1,030人（子ども815人、大人215人）

④ プレーパーク事業の推進

子どもの自主性・創造性・協調性を育むことを目的として、地域住民等が、公園等において規制を極力減らして開催・運営する「プレーパーク」を推進している。

《実績》

普及啓発事業	札幌市プレーリーダー研修会の実施、10名参加 出前講座等：10回、829名参加
活動支援事業	プレーパーク実施団体に対する活動の支援 ・実施回数 72回 ・参加者数 2,410名

(3) 子どもの権利に関する施策実施状況の調査

① 庁内

各局区が実施している事業の中で、「子どもの参加」や「子どもに分かりやすい情報発信」の取組状況について調査し、庁内において情報共有することにより、子ども参加等のより一層の推進につなげていくこととしている。

令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、「子どもの参加」事業の多くが中止となったことに伴い、「子どもに分かりやすい情報発信」の事例

も減少している。

《子どもの参加 事例数》

年度	平成 28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度
市政への参加※ ¹	61	62	60	49	29
行事等への参加※ ²	592	635	614	564	278
合計	653	697	674	613	307※ ³

※1 子ども向けのパブリックコメント、アンケート（単なる行事参加者アンケートは除く）、ワークショップの実施など、市政に対し意見を反映する機会となっているもの。

※2 行事の企画運営や当日の手伝い、発表者・来場者として参加しているものなど。

※3 実施予定 559 件のうち、252 件が新型コロナウイルスの影響により中止となった。

《子どもに分かりやすい情報発信 事例数》

年度	平成 28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度
ホームページ	285	303	333	286	176
パンフレット等	305	305	323	310	173
その他	103	128	142	101	76
合計	693	736	798	697	425

② 地域

地域団体等が実施している、子どもの参加の実践例などの取組状況について調査し、情報を共有することにより、地域における子ども参加等のより一層の推進につなげていくこととしている。

令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、地域団体が実施する取組の多くが中止となり、事例数が大幅に減少している。

《事例数》

年度	平成 28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度
企画運営※ ¹	26	24	28	26	6
行事への参加等※ ²	220	255	265	274	73
大人の取組※ ³	93	95	101	107	63
合計	339	374	394	407	142※ ⁴

※1 行事の計画段階から子どもが関わっているもの。

※2 行事当日の手伝い、発表者・来場者として参加しているものなど。

※3 子どもの見守り活動など、子ども自身は関わらないが、子どもの育ちのための大人の取組や活動など。

※4 実施予定 393 件のうち、251 件が新型コロナウイルスの影響により中止となった。